

「滋賀県における里親支援の現状」

滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局

家庭支援推進室長 川副 馨

一般社団法人滋賀県里親連合会会員の皆様におかれましては、日々、里親制度および社会的養育の推進につきまして、格別の御理解、御協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。

さて、滋賀県における里親支援については、令和3年度から里親養育包括支援（フォスタリング）事業が始まり、県の里親支援事業の一部（①里親制度等普及促進・リクルート事業②里親研修・トレーニング等事業③里親委託推進等事業④里親訪問等支援事業）をフォスタリング機関ごととに事業委託し、里親支援機関（湘南学園・鹿深の家・守山学園・さざなみ学園）の協力を得て、里親のリクルート時から里親委託措置解除後における支援に至るまでの一貫した里親養育支援を実施する体制を整えてきました。

また、里親連合会には、知ってやフォーラムの開催による里親制度の普及啓発や里親同士の相互交流の場を設け、里親ならではの横のつながりを生かしたサポートをいただいているところです。

フォスタリング事業が始まって約2年半が経りましたが、各種リクルートの成果もあり、

令和2年度末に214世帯であった里親登録世帯数は、令和4年度末に242世帯となりました。



また、令和4年度末時点の里親等委託率は、35.6%であり、近年増加傾向にある里親へのショートステイ委託や一時保護委託等も含めた里親活躍率は、67.3%と多くの里親さんに御活躍いただいているところです。

令和5年12月には、「里親および小規模住居型児童養育事業者に対するアンケート」を実施し、里親である皆様から様々な声を聴かせていただきました。県としては、いただいた御意見等を活かし、全ての子どもが安心安全な環境のもとで成長していけるよう、里親支援施策の充実を図ってまいります。

今後とも、里親制度および社会的養育の推進につきまして、何よりも子どもたちの福祉がよりよい滋賀県となるよう、御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

もくじ

■巻頭言「滋賀県における里親支援の現状」…… P.1	■「里親里子交流会」報告…………… P.7
■子ども達に高等教育を!! …… P.2	■里親サロンの報告と参加者の感想…………… P.8
■「里親支援センターに望むこと」 P.5	■「こどもの未来応援基金」2023事業完了前報告 …… P.11
■全国里親大会 / 近畿地区里親研修会全体報告 …… P.6	■事務局だより…………… P.12
■「里親知ってやフォーラム」報告…………… P.7	■編集後記…………… P.12



子どもを虐待から守ろう

滋賀県が実施している「オレンジリボンキャンペーン」を、滋賀県里親連合会は応援しています。また、この広報誌は、滋賀県からの補助金を活用し、作成しています。

子ども達のライフプランを考える上で、学歴はとて重要な要素であることは皆さんご承知のことだと思います。自立、賃金、ひいては Quality of life に大きな影響を及ぼします。進学を希望しても、実親や公的支援が得られず、進学を諦めた、あるいは里親さんが自腹を切って、進学させた例も数多く耳にする所です。幸いなことに、文科省の独立行政法人学生支援機構（JASSO）が令和2年4月入学の社会的養護の子ども達から相当規模の給付型奨学金制度が立ち上げ、高等教育進学への経済的ハードルが低くなっています。

図-1 に近年における里子の高等教育進学率（全国）を示しますが、この奨学金制度の活用により進学率は上昇し、一般家庭の子どもとその差は縮まってきています。しかし、この奨学金だけで、学費のすべてを充足できるわけではありません。図-2 にこの奨学金の給付を受け、自宅通学した場合の自己負担金額を試算した結果を示しま

す。国公立大学の場合はずべて無料になった上に、手元に年間 36 万円残ります。このケースすなわち国公立大学に進学するためには、学力上位 10%以内に入っていることが目安とされています。幼少期から過酷な生活環境にあった子ども達には非常に高いハードルと思います。私立大学の場合には年間 10 万円から 30 万円の自己負担が必要となります。これは他の奨学金を併給したり、アルバイト等で捻出することになります。幸いにして近年、社会的養護の子ども達向けの奨学金が相当数創設されています。この奨学金の検索サイトもできています。加えて、JASSO の貸与型の奨学金を、就職した企業が返済を肩代わりしてくれるところ（全国で 1463 社）もあります。

以下にそれらの WEB サイトを上げますので、活用して、子どもたちと共に高等教育を受ける道を開いて行きましょう。

① JASSO 給付型奨学金

JASSO 給付型奨学金

検索



② JASSO 貸与型奨学金

JASSO 貸与型奨学金

検索



③ JASSO の貸与型奨学金を肩代わり返済してくれるサイト

JASSO 肩代わり返済

検索



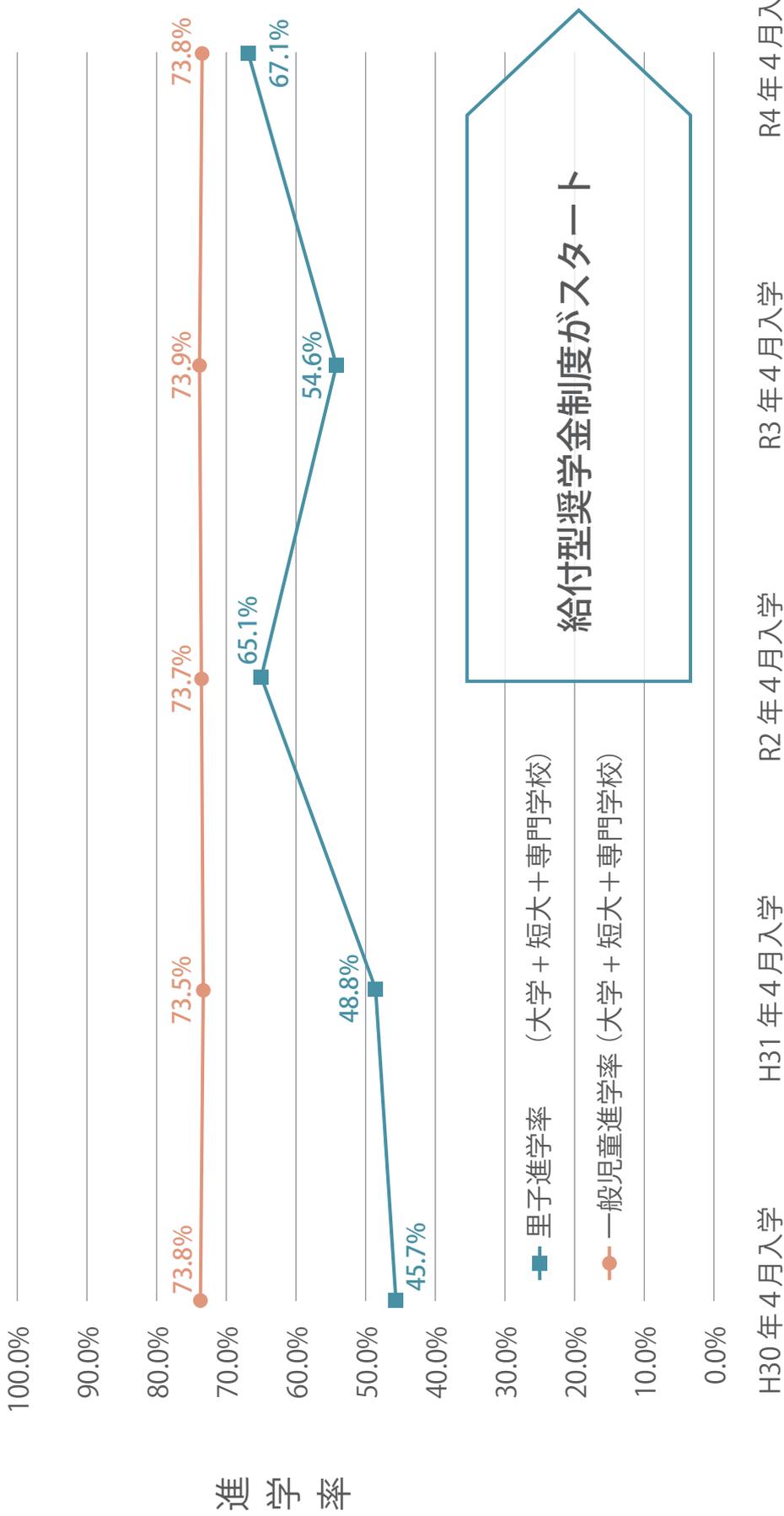
④ 社会的養護の子ども達専用の奨学金検索サイト

Miomus

検索



里子と一般児童の大学等進学率の経年推移(全国)



大学等学費の自己負担額試算結果 (R6年4月入学生から理工系拡充されます)

注) 時期によって変動しますので、必ず、学校資料により、確認してください。
自宅通学ケースです。

千円/年

大学等	学部	入学金	授業料	入学金 免除額	授業料 免除額	入学金	自己負担額 入学金	授業料	自宅通学 奨学金	自己負担
滋賀医科大学	医学部	282	536	282	535.8	0	0	0	350	-350
	看護学科	282	536	282	535.8	0	0	0	350	-350
	環境科学部	282	536	282	535.8	0	0	0	350	-350
	工学部	282	536	282	535.8	0	0	0	350	-350
	人間文化学部	282	536	282	535.8	0	0	0	350	-350
	人間看護学部	282	536	282	535.8	0	0	0	350	-350
	教育学部	282	536	282	535.8	0	0	0	350	-350
	経済学部	282	536	282	535.8	0	0	0	350	-350
	データサイエンス学部	282	536	282	535.8	0	0	0	350	-350
	聖泉大学	看護学部・人間学部	200	1,040~1,590	200	700	0	340~890	460	430
成安造形大学	芸術学部	200	1,091	200	700	0	0	391	460	-69
	スポーツ学部	250	1,000	250	700	0	0	300	460	-160
びわこ成蹊スポーツ大学	教育福祉学部	230	1,100	230	700	0	0	400	460	-60
	バイオサイエンス学部	250	1,390	250	700	0	0	690	460	230
長浜バイオ大学	龍谷大学	200	854~1,412	200	700	0	0	712	460	252
	法学部	300	1,098	260	700	40	40	398	460	-22
	産業社会学部	300	1,338	260	700	40	40	638	460	218
	国際関係学部	300	1,386	260	700	40	40	686	460	266
	文学部	300	1,243	260	700	40	40	543	460	123
	映像学部	300	1,226	260	700	40	40	526	460	106
	教育学部	300	1,098	260	700	40	40	398	460	-22
	政策科学部	300	1,289	260	700	40	40	589	460	169
	総合心理学部	300	1,326	260	700	40	40	626	460	206
	グローバル経営学部	300	2,600	260	700	40	40	1,900	460	1480
立命館大学	経済学部	300	1,132	260	700	40	40	432	460	12
	スポーツ健康科学部	300	1,338	260	700	40	40	638	460	218
	食マナー・ジモント学部	300	1,336	260	700	40	40	636	460	216
	理工学部	300	1,684	260	700	40	40	984	460	564
	情報理工学部	300	1,684	260	700	40	40	984	460	564
	生命科学部	300	1,715	260	700	40	40	1015	460	595
	薬学部	300	1,920	260	700	40	40	1220	460	800
	生活学科・幼児教育保育・ ビジネスコミュニケーション学科	200	1,020	200	620	0	0	400	350	50
	国文学科・子ども学科	220	920	200	620	20	20	300	350	-30
	滋賀文教短期大学		56.4	390	56.4	170	0	220	350	-130
滋賀県立総合保健専門学校		56.4	390	56.4	170	0	220	350	-130	
滋賀県立看護専門学校		100	400	250	590	0	0	350	-350	
大津赤十字看護専門学校										

文科系との差額が補填される

児相に里親担当を専任で配置してほしいと要望していたのが、つい先日のことに思えますが、こどもが家庭で育つことを優先する政策への転換から7年、里親支援のためのセンターが置かれることとなり感慨深いものがあります。ここで鍵を握る「こども家庭ソーシャルワーカー」認定資格が創設されました。児童相談所や児童養護施設、保育所などの児童福祉施設や学校など、こどもが関わるたくさんの場所で、この資格を持った人が活躍することでこどもの権利が護られ、虐待を防ぎ、こどもや家庭を支え、こどもが将来にわたって幸福な人生を送ることができる社会の実現を目指すとしています。

「ソーシャルワーカー」という仕事はよく耳にしますが、社会生活を送ることが困難な人の相談に乗り、必要な支援へつなげる専門職の総称で特定の職種や資格の名称ではありません。社会福祉士や精神保健福祉士などの名称独占の国家資格がありますが、業務独占資格ではないためそうした資格がない人もソーシャルワーカーとして様々な分野で仕事をしています。このソーシャルワーカーにも他の専門職同様、倫理綱領があり、実践において拠って立つものとして、人間の尊厳や社会正義、人権、多様性の尊重などが謳われています。その中で倫理責任が掲げられており、「II 組織・職場に対する倫理責任」はこのようになっています。

II 組織・職場に対する倫理責任

1. (最良の実践を行う責務) ソーシャルワーカーは、自らが属する組織・職場の基本的な使命や理念を認識し、最良の業務を遂行する。
2. (同僚などへの敬意) ソーシャルワーカーは、組織・職場内のどのような立場にあっても、同僚および他の専門職などに敬意を払う。
3. (倫理綱領の理解の促進) ソーシャルワーカーは、組織・職場において本倫理綱領が認識されるよう働きかける。
4. (倫理的実践の推進) ソーシャルワーカーは、組織・職場の方針、規則、業務命令がソーシャルワークの倫理的実践を妨げる場合は、

適切・妥当な方法・手段によって提言し、改善を図る。

5. (組織内アドボカシーの促進) ソーシャルワーカーは、組織・職場におけるあらゆる虐待または差別的・抑圧的な行為の予防および防止の促進を図る。
6. (組織改革) ソーシャルワーカーは、人々のニーズや社会状況の変化に応じて組織・職場の機能を評価し必要な改革を図る。

釈迦に説法で恐縮至極ではありますが、3~6については実践が難しい土地柄もあるように日々感じています。これからのこどもに関わるソーシャルワークの実践においては、実家庭であれ里親家庭であれ、支援があれば家庭で育つことのできるこどもが、徒(いたづら)に施設出身者として社会に出ることのないよう、「家庭」においての支援が行われ、支援センターが監視センターとなることのないよう心から願いつつ、里親としてよりも元こども当事者としての視点で里親養育、里親支援の活動を、使える命のある間続けていこうと思っています。市町の事業である子育て短期支援事業は家庭で困難を抱える家庭につながる近道であり、施設がこの事業に積極的に取り組むことで、膨大な数の何らかの困難を抱える子育て中の家庭を支援しながら、家庭に放置されている保護が必要なこどもを、通報や通告を経ることなく保護に結び付けて施設の必要な場合には施設の設備と機能を提供し、状況が整えば地域の里親家庭につないで家庭復帰を支援するようなソーシャルワークの拠点として、そして連携してこどもの最善を守る未来につながることを祈念します。



令和5年10月28日(土)・29日(日)、神戸国際会議場において全国里親大会(兵庫大会)及び近畿地区里親研修会が、テーマ「いっしょに歩て 希望の架け橋 こどもの未来へ」に基づき、全国から716名の参加を得て開催されました。

1日目は開会式、表彰式、行政説明、基調講演、そしてシンポジウムが行われました。会長表彰の受賞者は74組132名で、滋賀県からも2組4名が受賞されました。

最初に「社会的養護の現状及び関係施策について」と題し、こども家庭庁支援局家庭福祉課の鈴木茂課長補佐より行政説明がありました。児童虐待の増加等に伴い、里親委託率は年々上昇していることと、児童福祉法改正により4月から始まる「里親支援センター」について、そして社会的養護下の子どもの自立支援についての取組み、この三つを中心に説明をされました。

次に関西大学教授で家庭養護促進協会理事長山縣文治氏から、「社会的養育の推進と里親制度・里親養育」と題する基調講演がありました。社会的養育に関する「子どもの権利条約」や「国連代替的養育に関する指針」の考え方から、親子分離は出来るだけ避けること、分離後は家庭養育を優先することなど、家庭養育優先の原則の大切さについて話されました。

講演の後のシンポジウムは、コーディネーター藤林武史氏(西日本こども研修センターあかしセンター長)、そしてパネラーとして山縣文治氏・畑山麗衣氏(NPO法人GibingTreet[®]アガツケ、ファミホーム補助員)、榎本匡笑氏(里親)と里親・養親家庭で育った方二人により、「里親家庭で暮らす子どもの自立を考える」をテーマに、ディスカッションが行われました。

最後に、令和4年度から「フォスターユースの会」が設立され、活動が始まったことの報告を受けました。私は、自立に向かって試行錯誤している元里子(一人は同じような会に関わっていたことがある)のことを頭に浮かべて聞き入り、早速、元里子に入会を勧めようと思いました。

2日目は、「里親活動の充実とその先にある新

たな役割～SS
式イライラし
ない子育て法
(CPA)の紹介
～、「アドボカ
シーつて何で
すか?～生活
の中で子ども
の気持ちの表
現を支えるた
めに～」、「つ
ながらチーム
養育～施設(里
専)～、そして「明石で家族になる～ショール
ステイ里親になりませんか～」の4つの分科会
がありました。私は、「アドボカシー」と「ショール
ステイ」に関心があって、どちらにしようか悩
みましたが第2分科会の「アドボカシーつて何で
すか?」にしました。まず「アドボカシー」を調
べると「アドボケイトと同じ語源で擁護・代弁や
支持・表明などの意味を持ち…(Wikipedia)」と
でました。本当に私は今まで子どもに寄り添って、
擁護・代弁してきただろうかと疑問を持ちながら、
分科会に参加しました。

ファシリレーターは藤林武史氏と長瀬正子氏(佛敎大学准教授)で、最初に子どもの権利の4つの種類、

- 生きる権利(子どもの命にかかわる基本的なニーズを満たすための権利)
- 育つ権利(子どもが豊かな育ちにかかわる具体的な要件を満たすための権利)
- まもられる権利(傷つけられたり、不適切な対応をされることから保護される権利)
- 参加する権利(考えや意見が聴かれ、尊重され、大切にされる権利)

の説明を受けました。そしてミニワークの後、「社会的養護で育つ子どもの権利」をいかにして保障するか、皆さんの子育て体験に基づき、どのように子どもとの関係性を築き、子どもの意見表明や参加の権利を保障してきたか話し合いました。



「里親知ってやフォーラム」報告

湖西地域支部長 田辺幸司

第5回「里親知ってやフォーラム」が、10月21日（土）午後、大津市生涯学習センターに於いて開催されました。このフォーラムは県内4支部にて持ち回り開催で、今回は湖西支部担当でした。その為早期に会場を押さえようと走り回りましたが、大きな会場は既に予約済みでしたので、取れたのは80人余りの定員の会場でした。しかし、当日約50人程の参加者で丁度良い状態に収まり、これで良かったのだと思いました。今回参加募集に東奔西走を少しはさせていただきましたが、感じたのは、まだまだ里親はマイナーな存在だということでした。「里親って、犬の？」という返事をもらった時は少し衝撃でした。

さて当日は、山梨県立大学特任教授の西澤哲先生を迎えての講演を予定しておりましたが、先生自身の健康状態の上からオンラインに切り替えられました。

佐藤滋賀県里親連合会会長の開会挨拶の後、子ども青少年局の酒見主治より「里親制度について」の説明がありました。そして、引き続き里親表彰があり、今回は東近江市里親会の巽輝生・巽美津栄ご夫妻が受賞されました。

また、体験発表では巽美津栄氏が養育体験をお話され、預かった時はとても手のかかる幼児だったのが、今ではすっかり良い子に成長してくれた

と喜びの声を聞かせていただき、講師の西澤先生も講演の中で、巽氏の体験発表のことを、良い事例として何度も取りあげられていました。

そして、大津市里親会から河村直美氏が体験発表をされました。河村氏は地区の民生委員児童委員をされている時に里親認定研修を受けた、とお話されました。年齢的には養育里親としては難しいけれども、今もショートステイや一時保護などではまだまだ現役です、と聞かせていただき、若い人よりも経験もあり、里親は年齢に関係なく出来ることを教えていただいたように思いました。

休憩を挟んで西澤先生の「虐待からの回復と自立への支援」ということで先生の専門分野でもあり、オンライン上でも熱弁を終始投げかけられ、いかに里親が子供の自立の上に必要かというお話でした。

今回のフォーラムの開始前には、フォスタリング機関小鳩による「里親になりたい方への相談室」もあり、一組のご夫婦が来室され、また、白坂絵師による「親子似顔絵コーナー」にも来室者があり、それぞれ喜んで頂きました。その他、託児やオンラインの技術的なことも大勢の方々にお世話になり、無事に開催できたことを厚く御礼申し上げます。

「里親里子交流会」報告

湖北地域支部長 岸田正嗣

今年の里親里子交流会は2023年7月29日（土）、30日（日）の一泊二日で甲賀市土山にあるダイヤモンド滋賀で開催されました。参加人数は大人15名、子供13名、支援機関から3名とコロナ前からは減少しましたが、次のようなスケジュールで夏の二日間を楽しみました。

29日午後から続々とダイヤモンド滋賀のロビーに人が集まり始め、久しぶりに出会う顔や初めて見る顔で子ども達はソワソワ、ドキドキしながら集合を待っていました。その間も子ども同士打ち解けていき、ロビー周辺を走り回ったり、探索を行ったりしながら周りの利用客に迷惑とならない

か心配する大人達を他所に大はしゃぎ、ロビーで理事長の佐藤さんからの開催挨拶が有り、楽しい



1泊2日が幕を開けました。

先ずはお楽しみのプール遊びです。今まで見たことも無いような大きなプールと、入ると流されるプールに始めは戸惑いながらも徐々に楽しみ方を掴んだ子ども達は、1時間に1度ある休憩時間ですら、体を温めるジャグジーでバシャバシャと水遊びをする程に、『もっと、もっと遊びたいの』と言う子どもらしい一面を存分に発揮し、たくさん用意して頂いた浮き輪やフロートを使いながら流れるプールを周回したり、中央のプールでボール遊びをしたりして楽しい時間を過ごしました。

プールで楽しい時間を過ごした子ども達は今晚宿泊するバンガローへ移動し、ここでも初めて触れる大きな木の家にビックリ、アスレチックのような階段を上り下りしたり、たくさん有る部屋を探検して回ったりと、普段自宅では味わえない感覚に大興奮。一通り探索が終わった後は、ホテル本館にて入浴と食事時間となりました。入浴を済ませた後の食事中も自分が食べられないものを子ども同士がやり取りをしたり、カレーがお代わり自由となっていたため、そちらをメインに味わっている子どもも居ました。

◆ 里親サロンの報告と参加者の感想 ◆

湖東支部里親サロン

蒲生地域里親会 小泉翔子

令和5年8月6日（日）、湖東支部里親サロンが開催されました。今年も昨年と同様に東近江市・鈴鹿の山中、茗荷村の「かどや」にてバーベキュー大会および交流会が行われ、多くの里親家庭やファミリーホームの皆さん、また支援機関の方々が参加されました。

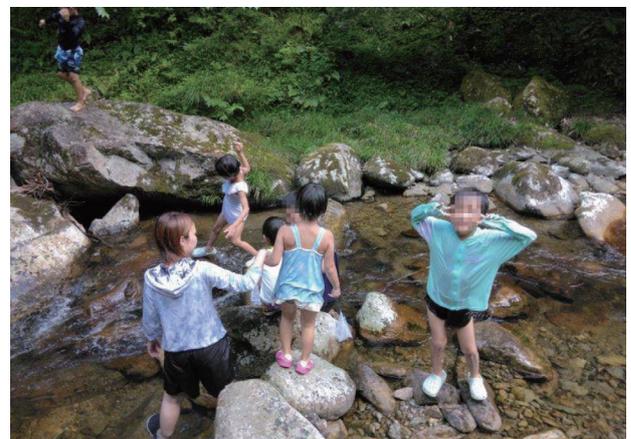
暑さ厳しい季節でしたが山の上は涼やかで、近くの溪流で水遊びをしたり、虫をつかんだり、山のなかで走り回ったり…大自然に囲まれ楽しいひと時を過ごさせて頂きました。

こうして定期的に交流の場を設けて頂いてますこと、また食事やデザート、テントやバーベキュー台の準備と、本当にありがとうございました。

湖北支部里親サロン

愛東地域里親会 岸田正嗣

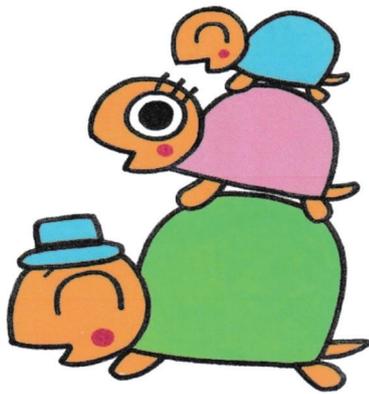
2月3日、今日は年に一度湖北の里親さんが集まって鍋を囲む、恒例の鍋会が催されました。毎回沢山の野菜を提供頂く、里親さんも参加していただき見たことも無いような大きさの野菜に大人も子供もただ、ビックリするだけ。白菜を半分に切るだけでも一苦労しながら準備を進めていきました。毎年、3鍋を作っているのですが、今年は子供が食べやすいように具材を考えた鍋を1つ考案いただきました。野菜、豚肉、鶏肉、海鮮にと



鍋から溢れんばかりのボリューム、その上に子供鍋はラーメンとソーセージがたっぷり入り、遊びの途中で覗きにきた子供達は「まだ？ まだ？」と炊き上がる前から待ちきれない様子でした。

その後、出来上がった鍋を皆で囲みながら、子供達は一箇所に集まりアレが良いこっちも入れてと自分が好きな具材をお腹いっぱいになるまで堪能した後はジッと座っているはずも無く、沢山ある座布団を引っ張り出して雪崩を起こしたり、押し入れの中で籠もってみたりとやりたい放題。

湖北の鍋会は私が里親登録した年から参加しており、途中コロナ禍で開催されなかったことはありますが鍋と言えばやはり大広間、畳が沢山敷き詰めてある部屋を使って開催されていたため、前の会場でも座布団を沢山引っ張り出して、山を作ったり滑り台にしたりするのは変わらないねえ〜と長年参加している里親さん達と談笑していました。本年度は支援機関も一緒に鍋をつつくこと



が出来るようになり、コロナ前と同じような雰囲気でごせるようになってきました。里親を取り巻く環境は今後も刻々と変化して行くとは思いますが、何か

あっても皆で仲良くご飯の食べられる。そんな里親会を今後も継続出来れば、良いなと思った一時でした。

来年は皆さんも是非、参加いただき鍋を楽しみつつ、子供達の楽しいビックリするような遊びを見に来てはいかがでしょうか？

湖西支部里親サロン

大津市里親会 奥田康裕

今年度湖西支部では里親サロンを開始いたしました。令和5年9月18日平野コミュニティーセンターに於いて「関わりにくいお子さんを預かるために～2.3日の預かりのなかで～」と題し、いわゆる大津市の子育て短期支援事業で受託しているお子さんについてフォスタリング機関こぼと職員の方々をファシリテーターとして迎え14名の会員さんが参加され、その子が生まれ持ってきた特性や、生活環境を理解したうえで里親家庭で相互に安心してその期間過ごすことができるためにどのような情報があればよいか、また、実際の経験で役立ったこと、失敗したことなどをグループワークを通して参加者で共有しました。

今回の研修で抽出された意見や提案を大津市子ども、子育て安心課との話し合いの機会を持ち子育て短期支援事業をさらに熟成させていきたいと思えます。

湖西支部里親サロン

「関わりにくいお子さんを預かるために」に参加して

大津市里親会 山中美穂

養育里親と成り半年が過ぎました。里子とは互いの習慣の違いや思考行動の癖や傾向が解らず、共に生活する事の困難を感じる事があります。里

子との生活を優先させておりショートステイの受け入れ経験はありませんが、現在の生活に参考となる学びや里親経験のある方達との交流から元気や癒しを頂いており、なるべく研修に参加しています。

今回の話合いの中で印象に残った事は、次の4つの事です。

- ①子どもの家族構成、預ける事の説明内容等の背景を知る事の大切さ
- ②子どもの嗜好、傾向、特に夜のルーティンを知って子どもの安心する環境を作る事
- ③既往歴、内服薬やアレルギーの有無の確認
- ④緊急連絡先を確認する事と保育園等の情報共有の必要性

でした。

参加者の共通する思いは、子どもを安全に預かり、預かった子どもに安心して過ごしてもらうために前日までに必要な情報を漏れなく得たいという事でした。また、預ける親御さんは疲弊されている方もおられるためエントリーシートを記入する事も困難な事があります。預ける親御さんと預かる里親との間をスピーディー、且つ正確に情報交換が行えるシステム作りを希望する声が多かったです。そのため縦の繋がりと共に横の繋がりを固めていく話し合いができて有意義でした。

第1回湖南地域里親サロン

草津市里親会 白坂充生

被害者も含めて、いわゆる「LGBTQ」と呼ばれてしまう方々も長い間誤解され差別され、「多数派」の生活の妨げになるとして隅に追いやられてしまう存在であったと思います。私達の里親活動とは子どもたちの「声なき声」を大切に活動だと思えますし、それはマイノリティの方々の声に耳を傾けることと底辺では同じなのではないかと思うのです。

今回の反省会で私達はたくさんのご意見を頂きました。ご家族や里子さんへの愛を吐露して下さった里親様もおられました。そのような中で映画に対する違和感や戸惑いを感じたご意見があったことも事実です。しかしこれは、とても大切なことと私達は思っています。多様性を重視した共

生社会とは、私たちが相容れない・信じられない・価値観にそぐわないことを発見する・見つめる・そして受け止めることから出発するものと思います。

今回の上映会を通して、様々な問題をみんなで話し合えるような契機としたい。話し合うことを積み重ね、数ミリでも前に進めるようなアイデアが生まれることを期待したい。だから私たちは、決して「話し合う」ことを止めてはいけないのだと、強く思うのです。

第1回湖南地域里親サロンに参加して

草津市里親会 Mさん

こちらは1970年代アメリカ、ゲイカップルと育児放棄されたダウン症の子どもが家族になると奮闘する物語で、2021年8月の大津市で起きた痛ましい事件を彷彿させた。

絶対的に強い母親の親権、根底にある差別のフィルター、他者を愛し育てること、子どもにとって一番良い環境とは何か、について考えさせられる映画だった。

子どものマルコが過ごした温かな時間は、彼にとって宝物であったのではないだろうか。

上映会翌日のインターネットニュースで、日本人とスウェーデン人の国際同性婚カップルが2016年代理母出産により男児を授かるとあり、心晴れやかになった。

性的マイノリティへの差別、性差別、同和問題、エイジハラスメント等、自分の中に差別フィルターはないかと、常に問いかける必要があると感じる。

第2回湖南地域里親サロンに参加して

甲賀湖南地域里親会 井村悌規

社会的養護を経験した子どもたち（ケアリーバー）が、措置解除後どのような課題があり、どのように支えていくか。その実情と課題、展望について、つながり若者センターの中島様、フォスタリング機関こぼと小島様、児童養護施設鹿深の家自立支援専門員山田様を迎え、リアルなお話を聞かせて頂きました。若者支援という言葉がテレビや新聞で取り上げられている中、滋賀県では、

全国に先駆けてケアリーバーだけでなく、すべての若者対象にした事業として令和3年3月に守山市に活動拠点を置き支援を実施されているとのことでした。

実際、研修会場の託児スペースが集まってくる若者の活動場所の一部をシェアされてい

たこともあり、若者のリラックスした様子や皆でワイワイとDIYを楽しんでいる様子を垣間見ることができました。小さい子と関わってくれる子どももいて温かく和やかな雰囲気を感じとることができました。わかってきている人たちと過ごす時間は日常のストレスを和らげ、情報共有したり、お互いの様子を確認する場として、大変意味のあることだと思いました。

現在お預かりしている子が中学生となり、進路を考える中で「自立の前に立ち足かかる経済面、生活面、精神的な支えが、県内のいくつかの団体から得られることもわかり、その情報をもって子どもと考えていけることは心強く感じました。

子ども家庭相談センターをはじめ、地域や保育園、学校だけでなく様々な方々に支えられて私たち家族一同がこの10年を過ごしてこれたことと思いますが、措置解除された後こそ、本人のSOSの発信力とそれを察知する支援者の方々が本当に必要になるのではないかと思います。

今年度は、ケアリーバーの抱える課題について対策を政策提言されることを目標とされているとのこと。現実逃避が簡単にできる世の中ですがそれが課題を先送りしたり、さらに困難な課題になってしまったりしていることを見聞きします。生きづらさを感じている若者たちのことを眉をひそめるのではなく、少しずつでも理解して下さる人が増えることを一支援者として強く望んでいます。



WAM(独立行政法人福祉医療機構)「こどもの未来応援基金」2023 事業完了前報告

広報専門部会長 黒川玉英

こどもの未来応援基金の助成を受け、以下の事業を実施しました。

1. こどもの経験値アップ支援

夏休みに家族と旅行に行ったり、様々な体験の機会を得ることの難しい子ども達に体験の機会を提供することで、経験値を上げ自己肯定感の向上を図った。同行できる保護者には参加を募り、他の家庭との交流やそれぞれの親子関係を見直す機会ともなった。

○USJ 日帰り

○隠岐の島 2泊3日旅行

2. 生きる力アップ支援 (習い事)

→WAM 審査により却下

3. 里親の養育力アップのための研修

米澤好史先生のオンライン研修「愛着障害と発達障害の理解と支援」

令和5年10月7～8日

→草津交流プラザ(南草津フェリエ)

令和6年3月3日

→草津市立市民総合交流センター(キラリエ草津)

※講演DVDや書籍の貸し出しも実施中

4. 里親を増やすための広報

「野洲のおっさん里親になる」アニメ啓発動画制作
Facebook 広告→スマートフォンの購入

野洲のおっさんとごみ拾いトーク→3月15日収録

幸せいっぱい



(3/25～28
18:00～18:10 びわ湖放送『知ったかぶりカイツブリニュース』内)

5. 居場所事業支援

市町の子育て短期支援事業の里親委託を進め

ているところであるが、ショートステイのみ受託の手当てで準備を整えることは難しい。また、子ども食堂や不登校支援、自立後の支援など、居場所事業を実施している里親さんも持ち出しでの活動になりがちであることから、地域での子育て支援、虐待予防に貢献しながら里親としての経験値アップも図れるよう、ショートステイ受託を実施している(またはこれから実施する予定の)里親さんや、居場所事業を実施している(またはこれから実施予定の)里親さんに物品提供や、研修等の際の講師謝礼・託児代など必要な支援を行った。

●金額(令和6年3月8日現在)

①640,038円

②264,448円

③968,160円

④625,128円

合計 2,497,754円 残金 502,246円

※計上されていないもの→スマートフォンの月ごとの利用料

物品を購入した会員から領収書が提出されていないもの

Facebook 広告(¥3,000/月)

●貸し出し支援物品例

○おむつ、ミルク(支給)

○布団など寝具

○幼児用食卓椅子、バウンサー

○練習用自転車

○空気清浄機

○プール用品(浮き輪、ボード、アームヘルパーなど)

○虫取り網・かご(行事用各10)

○玩具(カプラ、クラスク、知育玩具など)

○チャイルドシート、ジュニアシート

○おねしょシート、幼児便座

○保管用倉庫

○ショートステイに関する事務のシステム化のためのパソコン、HD、プリンター、タブレット入力用キーボードなど

事務局だより

今年度の事業につきましては、当初の予定どおりに執行することができなかったことを事務局としてお詫び申し上げます。来年度よりフォスタリング機関が里親支援センターになり、包括的な里親里子の支援が始まります。今後は、里親支援機関としての里親会の役目を考え直すとともに、新たな事業も考えていく必要があります。昨年秋にダイヤモンドソサエティの法人会員になったことは、一つのヒントと私は思っています。なお、全国里親会会長表彰の受賞者は、小椋慶造様・佐代子様と滝裕通様・玲子様で、滋賀県里親会会長表彰の受賞者は、巽輝生様・巽美津栄様でした。

私事で恐縮ですが3年半前に大病を患い、その後遺症が残り、今も悶々と時を過ごしています。このような状態で事務局を担うことは、会員の皆様にご迷惑を掛けることになると思い、今年度をもちまして退くこととしました。ただ、6月30日に近畿地区里親研修会が滋賀県大津市で開催されます。この大きなイベントにつきましてはお手伝いをさせてもらう予定です。そしてイベントを成功させるためには皆様方のご協力、そしてご参加が必要です。よろしくお願い致します。(事務局 村田潔)

滋賀県里親連合会のロゴマーク



全体を見ると子どもの顔に見えます。部分的に見ると、青い円の内に2人の子どもがおり、外にいる5人家族が、2人の子どもを里親家庭に迎え入れようとしているのをイメージしています。

このロゴマークは、大津市里親会の元里親さんが、里親会のために作製され、寄贈されたものです。

期 日	事業（行事）	場 所	参加者
7月29・30日(土・日)	里親里子交流会	甲賀市ダイヤモンド滋賀（湖北支部担当）	31
10月21日(土)	里親知ってやフォーラム	大津市生涯学習センター （湖西支部担当・広報専門部会）	34
10月28・29日(土・日)	令和5年度全国里親大会 （近畿地区里親研修会）	神戸国際会議場	716
9月～1月	里親サロン（1回目）	各支部ごとに開催	
3月	里親サロン（2回目）	各支部ごとに開催	
3月16日(土)	里子交流会	栗東ボーリング・ジム（里子等自立支援専門部会）	大人 11 小人 16
3月31日(日)	しが里親だよりNo.94 発行	里親連合会事務所（里親広報専門部会）	

編集後記

昨夜、立ち上がった時、フワリと辺りが揺れました。地震かと思いましたが蛍光灯の紐は振れていません。けれど揺れ感覚は次第に大きくなり、果ては何度も嘔吐し、ぐったりその場にへたり込みました。日頃「逝く時はあっさり」と豪語していた私が、この時は夫に「救急車呼んで」と呻きました。

救急隊員の、私への最初の言葉は「ご自身のお歳を言えますか？」でした。答えた私は、いつになく我が歳を実感し、ショックを受けました。その後搬送病院の待合室で看護師が、診察室で医師が、CT 検査室で技師が同様に尋ねます。その度に「私はもうこんな歳だったのだ」と、暗い悟りの底に沈んで行きました。

結局、何かの点滴で目眩は収まり、原因は不明のままで、後日耳鼻科に受診するよう言われて帰宅。祝日を挟んだ2

日後でも嘔吐感が残って食も進まず、重い足でノロノロと病院に向かいました。耳鼻科の医師は、思わず「大丈夫？」と疑う、学生のような若い医師でした。問診、平衡感覚検査、聴力検査の後「問題はありません。目眩は、多分その時三半規管の耳石が、拍子でコロッと移動したのでしょう。又自然に戻るものです。」との診断。訝る私に彼は、検査結果表をヒラヒラ掲げ「本当にこのお歳ですか？お若いですねえ（実は私はマスクをしていました）。聴力なんか30か40歳台ですよ！」と笑うのです。

病院を出る時、気付けば既に私の足取りは軽く、食欲も湧いていました。あの若い医師は名医でした。

編集部では様々な方のご意見、ご感想をお待ち申し上げております。年齢は問いません。

(編集委員 吉田ますみ)